

平成 27 年度 第 1 回富山県総合教育会議 議事録

1 日時 平成 27 年 4 月 28 日 (火) 15:00 ~ 16:05

2 場所 富山県民会館 8 階バンケットホール

3 出席者 富山県知事 石井 隆一

富山県教育委員会

教育長 渋谷 克人

委員 山崎 弘一

委員 稲垣 晴彦

委員 種部 恭子

委員 大谷 弓子

委員 米田 猛

4 説明出席者 知事政策局長 山崎 康至

(事務局) 教育・スポーツ政策監 荒井 克博

教育次長 伍嶋 二美男

教育次長 川腰 善一

参事・教育企画課長 山下 康二

知事政策局課長 荻布 佳子

他 関係課職員等数名

5 議事

- (1) 富山県総合教育会議の設置について
- (2) 教育に関する「大綱」の策定について
- (3) 有識者委員会の設置について
- (4) 本県教育の現状と課題について

6 会議の要旨

司会（荻布課長）が開会を宣し、石井知事の挨拶後、議事に入った。

(1) 議事事項(1) 富山県総合教育会議の設置について

- ・荒井政策監より、資料 1-1 にて、総合教育会議の構成員、会議における協議・調整事項について説明の後、資料 2-1 から 2-3 までの設置要綱(案)等について説明した。
- ・司会より、意見・質問を求めたところ、特段の発言はなく、議事事項(1)については承認された。

成立した運営要領の規定に基づき、以後の議事については知事が進行した。

(2) 議事事項(2) 教育に関する「大綱」の策定について及び議事事項(3) 有識者委員会の設置について

- ・荒井政策監より、資料 1-1 及び資料 1-2 にて、「大綱」と富山県総合計画、富山県教育振興基本計画との関係、「大綱」策定のスケジュール等について説明した後、資料 3 の「富山県教育大綱(仮称)策定有識者委員会設置要綱(案)」について説明した。
- ・知事より、意見・質問を求めたところ、特段の発言はなく、議事事項(2) 及び議事事項(3)については承認された。

(3) 議事事項(4) 本県教育の現状と課題について

知事より、各委員に対し、順に発言を求めた。

<各委員発言要旨>

(稲垣委員)

- ・「学ばずして思わざれば則ち^{くら}し、思わば学ばずれば則ち^{あやう}殆し」という言葉がある。今、子どもたちはしっかり学んでいると思う。しかし、どうも思いがないという感じがしている。教科書に対して非常に熱心に学んでいる子どもたちは多いが、それを超えて、自分の思いや考え方を発展させていくことについて、少し欠けているところがあるのではないか。社会に出てから、いろいろな意味で自分の能力を発揮し、あるいは、社会に対してリーダーシップを発揮していくためにも、何かを思うという習慣付けが大切であり、それが「未来を切り拓く人材」をつくることにつながっていくのではないか。
- ・子どもはいろいろな意味で試行錯誤を繰り返していくが、その試行錯誤に対して社会全体が寛容でなくなってきた気がしている。あるとき間違ってしまった子どもたちが、もう取り返しがつかないという形で将来に対して諦めてしまう。もっと子どもに対して寛容な社会をつくるという意味での教育の役割もあるのではないか。

(種部委員)

- ・いじめ、不登校等の問題だが、子どもたちにとって、学校に行っても安全に暮らせるのか、それから、友達との間で空気を読み過ぎるなど、難しい子が増えているが、そういう子どもたちは日々の生活でも大きな問題を抱えている。その中には重大な事案が起きる兆候、小さなサインがあるはずであり、アクシデントが起きたための組織をつくるだけではなく、その予防というか、小さな事案、子どもの様子が

何かおかしいということだけでも、全て共有できるような風通しの良い組織体制をつくることが重要。

- ・最近の子どもたちは体力が落ちていて、体づくりが非常にお粗末だという気がしている。生涯にわたって、それこそ高齢になったときに寝たきりにならないためには、子どものときの体力づくりは非常に大事。
- ・富山県で育てた子どもたちが富山県で活躍してほしいという思いを強く持っている。例えば、少子高齢化社会を迎えるにあたり、医療や介護に携わる人材の育成が足りないのではないかと危惧している。魅力ある高等教育機関の存在は、医療者、医師だけではなく、看護師、介護に関わる方のマインドを育てることにつながる。

(大谷委員)

- ・目に見える単語や数字で評価されるものだけではなくて、心の豊かさや思いやりの心、それから今、盛んに言われている子どもたちの「生きる力」も全てが人間としての基礎になるもので、美しいものを美しいと感じる心や、子どもたちの健やかな育ちのために、今、大人が何をしなければならないかを考える必要がある。新しく建設される近代美術館は、子どもから大人までが創造の場として活用できるようなアトリエ等ができるということで、県民の皆さんの期待も大きいのではないかと思う。
- ・子どもたちがふるさと富山への誇りや愛着を持つということで、世界遺産の五箇山をはじめ、富山県にある多くの文化財や伝統芸能に関して、教育の中にもっと取り入れていくことが望ましい。
- ・特別支援教育を必要とする子どもが増加している。そういう教育を学校現場だけではなく、いろいろな専門家、地域の皆さんにも広く理解を求めることが必要。学校の先生方の指導も大変だが、専門家の意見を聴くなどして、特別支援教育の充実強化を図っていくことが重要。

(米田委員)

- ・学校の先生はとにかく忙しい。いろいろなものを教員が抱え過ぎており、それ故、心のゆとりがなくなる、体も悪くする。簡単にはいかないだろうが、人的措置、それに伴う財政的措置が必要だと思う。今、学校ではカウンセラーなどが配置されてきているが、まだまだ不足しているのではないかと思うし、事務的な仕事も増える一方である。本来、教員の仕事である子どもと直接的に授業等々で、あるいは、間接的に準備等々で関わる時間が減ってきているのではないかという気がする。一挙にはいかないが、学校内のスタッフの構成についても徐々に変えていかなければいけない。
- ・土曜授業の復活も最近言われており、本県でも幾つかの市が試行的に行っているが、教員の負担は非常に大きいものがある。実態をきちん

と見て、徐々にではあっても、何らかの対策を提案していかなければいけないのではないか。

(山崎委員)

- ・高校における歴史の学習については、国際化が進展する中であって、日本人としての自覚を持って主体的に生きていくことが必要と言われているが、その意味から、ふるさと富山の歴史や日本の歴史を学ぶことは大変重要であると考え。これまでも本県では他県にない形で取り組まれているところだが、今後の学習指導要領の改訂にあたり、日本史の必修化が諮問されていると聞いているが、本県において日本史など歴史の学習にどのように取り組んでいくかが課題。
- ・社会のグローバル化が進むなか、英語教育の充実が必要と言われている。今、国では小学校における英語の教科化が打ち出されているが、今後、小学校教員の英語力、あるいは、英語を指導する力の向上に向けた体制づくりが課題。
- ・少子化の進展の影響が学校教育にも影を落としている。学校としての望ましい規模、その一方で生徒は減少してきていることを踏まえて、学校をどうしていくのか、また、学科をどうしていくのかなど、本県ならではの魅力ある教育を一層充実・発展させるという意味から、県立学校の学習環境の整備が必要。今後、中長期の視点に立って、そのあり方、基本的な方向性について具体的に検討を進めていくことが課題。

(渋谷教育長)

- ・今まで各委員からご指摘があった教育現場の諸課題の根底にあるのは、学校と家庭の連携にあるのではないかと考えている。例えば、学力向上について言えば、昨年度の全国学力・学習状況調査によると、テレビゲームをする時間が短い児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られるが、本県ではテレビゲームを1時間以上する児童生徒の割合が小学校・中学校ともに全国よりも高い現状にある。こうした生活習慣、家庭学習の定着、そして、いじめ、不登校、ネットトラブルといった問題行動の未然防止には、家庭の果たす役割も大きいので、家庭と学校が密接に連携にしていけることが大変重要なのではないかと考えている。
- ・英語教育や特別支援教育についての教員の指導力向上が重要。国においては今後、児童生徒が自ら課題を見つけて、検討しながら解決策を探る授業方法であるアクティブラーニングや、ICT教育などの面で新たな指導力が必要と位置付けている。こうした新たなニーズに対応するため、教員自ら研さんすることが必要になるが、多忙な教員が着実に力を高めて、自信を持って児童生徒を指導できるように支援していくことが重要と考えている。

(石井知事)

- 皆さんから、大変貴重な、重い課題をご指摘いただいた。最初に稲垣委員から話があったとおり、最近の子どもたちは知識として教科書に書いてあることはそれなりに勉強しても、それを実際に日々の生活、実際の自分の身に引き付けてものを考えて、いろいろな課題を解決していくところが少し弱くなっているのかなという感じがする。探究科の創設や、さまざまな問題に遭遇したときの問題解決能力、論理的な思考力を高めるということで科学オリンピックなどを行っているが、これから教育現場でどう対応していくか、この総合教育会議でも議論していきたい。それから、寛容さ、遊びが少ない社会になりつつあるのではないかという点もそうかなという気がする。子どもたちはさまざまな可能性を持っており、なるべく一人一人のお子さんの才能や個性をできるだけ引き出してあげて、伸ばしてあげる教育も大事だと思っている。
- 種部委員が言われた、子どもたちの特に人命に関わることについては、迅速な対応が必要。そのためにも、米田委員から、学校現場での先生方の負担をもっと軽くする努力も必要だという話があった。私が知事に就任させていただいて以来、前はなかったスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの方々を配置したり、学校の先生は少子化対策、いじめ対策など、いろいろな理由で定数はむしろ増えており、その他に理科、音楽、美術などの分野に専科教員を配置するなど、県政全般を見ていると、教育には随分と力を入れているつもりではいるが、そういうお話も出たので、努力していきたいと思う。また、安全・安心のことについて言えば、「富山県安全なまちづくり条例」を制定し、現在では学校安全パトロール隊というものが全ての学校にできている。全国的に見るとかなり充実している方だと思うが、もちろんまだまだ課題があるので、これは心して対応していかなければいけない。それから、地元でもっと高等教育、また、そこを出た人がふるさとで働いてくれるようにするのが望ましいという話も出たが、この点については、今回、地方創生の人口減少対策の一つの政策として、例えば四年制の看護大学をつくる、あるいは、県立大学は工学部の単科大学だが、五つの学科それぞれに講座を増やしたりすることなども含めて、検討することになっている。地元の大学であれば経済的負担も軽く済むので、十分にハイレベルな教育機会が受けられる。そういう方々がなるべく地域に根差した活動をしていただけることが、今よりもっと増えるように努力していきたい。
- 大谷委員が言われた文化の関係について、今度つくる新近代美術館（仮称）については、ただ鑑賞するだけではなくて、子どもたちをはじめ、意欲のある県民の皆さんが創作活動をするきっかけになるようなアトリエやギャラリー等を設けることにしている。また、富山県の伝統工芸

品産業は後継者不足などいろいろな課題があるが、若い方の中に将来性がある人も育ってきているので、そういう方々をさらにサポートしていきたい。特別支援教育については、学校の先生の研修の際に、一定期間、特別支援教育を集中的に行って、現場を見てもらうようにしているが、さらに充実していきたい。

- ・米田委員が言われた、学校の先生が忙しいという点は先ほども申し上げたが、そういう声があることも事実なので、さらにどのようにしたらいいのか、皆さんとともに考えていきたい。また、土曜授業、土曜学習についてはいろいろな議論があるところで、皆さんのご意見を伺って取り組んでまいりたい。
- ・山崎委員の言われた、歴史の学習、特に日本史の学習については、11月に中教審に諮問されたところなので、引き続き、努力していきたい。英語教育については、去年、4校の小学校に英語の専科教員を配置し、今年は20校に拡充するなど、対策を講じているが、これからも努力していかなければいけないと思う。また、県立学校の問題、再編の問題も大変大事で、これこそ幅広い皆さんのご意見をお聴きしなければならない。ただ、いろいろな論点があるが、高校教育を受けるお子さんがどういう教育を受けられたら一番望ましいかというのが大事な論点の一つで、そうしたことも考慮しながら、この議論を進めていかなければいけないと思う。
- ・教育長は責任ある立場ですから、頑張っていたきたい。

それでは、今日の会議の協議結果を踏まえ、一つは、大綱は今年度中に策定する。また、有識者委員会を設置して、必要に応じて意見を聴く。それから、今ほど教育長、あるいは教育委員からご発言のあった課題については、改めて次回の会議から協議を重ね、必要に応じて、その内容を大綱に反映させることにしたい。

7 閉会

16時05分、議事が終了したので、知事が閉会を宣した。